

JAXA の白木理事が資料 8-4(宇宙飛行士の募集)を 4 分弱で説明した後、4 分余の質疑応答があった。

青江: 今のご説明、資料の中のご説明の中にも、今の此の山崎さん迄のこれでは「きぼう」の運用がどうも立ち行かんのだと云うご説明は何等無いんですよ。其れが有って、多分此れに至るんだと思うんですよ。現実問題、此の状態だと、「きぼう」の運用が立ち行かないんだと云う事を納得して貰わないと、「ああ、宜しい。」と云う具合には参らないと云う風に思うんですけどね。

JAXA 白木: ええと、まあ、口頭で申し上げますと、今の処今年の 5 月に船内実験室が打上がりますと、今年の 12 月から最初の長期搭乗員若田が搭乗する予定になって居ります。それ以降 2015 年までを、今、想定して居りますが、其れ迄の搭乗機会と云うのを 5 乃至 6 回を想定して居ります。現在宇宙飛行士が 8 名居りますが、其の内 2 名は第一線を退いて

¹ 傍聴している時には、実に正当で、論理的な指摘だと感じて居た。しかし、テープを起こしながら考えて、少々疑問に思えて来た。宇宙飛行士の募集は JAXA の人事問題であり、SAC が何処まで管理するのか、明確になっているのだろうかと思った。以前、非公開で人事案件を審議した事があった。内容を知る事は出来ないが、JAXA の理事の人事だったと想像している。企業でも取締役の人事異動は株主総会の決議事項になっているので、SAC が JAXA の理事の人事について審議するのは考えられる事である。宇宙飛行士の募集も同じ水準なのだろうか。

居りますので、現役の飛行士は 6 名で御座います。今後 6 名の中で健康的な問題或いはその他事故等を考えますと、全部が搭乗出来るかどうかと云うリスクも御座います。まあ、そう云ったリスクを考えて居ります。そう云った事と、6 回の搭乗機会考えますと、1 回の搭乗アサインにプライムとバックアップと云う 2 名のアサインが必要で御座います。まあ、そう云った事考えますと、其れだけで約 32 名位不足して居ります。そう云う意味で、最後の 1 乃至 2 回の処のバックアップ乃至プライムが不足しているという事で、合わせまして最大 3 名程の不足が見込まれて居りまして、そう云う事から、今回募集を始めたいと云う事で御座います。

松尾: 私もまあ其れを伺いたいと思ってたんですが、そう云うご説明だと、最大 3 名と仰った、其処の処はもう一つ最低 2 名と云うのがくっついてるんですか。

JAXA 白木: 最低を決めますと、応募された方が全て規格に、要求に満足出来る方が居られれば 2 名と云う事もありますが、全部が全部規格を満たさなくて、満たす人が 1 人とか 2 人とかと云う場合も考えますと、要求に対して今回十分な数の採用が出来ないかも知れませんが、一応そう云う主旨で 3 名と云う事です。

松尾: 其の時、先程コンティンジェンシー含んでって云う話だったから、何とか残りで頑張り切ろうと、そう云う事ですか。

JAXA 白木: 其の場合は次のフェーズで募集と云う事を考えて行きたいと思えます。一度に 3 名要求を満たす人が応募して頂ければ、3 名を採る事が有ると云うで御座います。

松尾: はい。

青江: あくまでも「きぼう」の運用と云うコンセプトの中での話と。

JAXA 白木: そうですね。今、想定して居りますのは、米国 NASA が想定して居ります 2015 年までの運用を想定した範囲で、此れだけの飛行士が必要だと云う事で御座います。

池上: 6 月に応募締め切りが有る訳ですよ。で、決めるのが来年の 2 月。その間、ドンドンドンドン減らしてく訳なんですか。

JAXA 白木: ええ、そうですね。第 1 次から第 2 次第 3 次と募集を絞って行きます。最初は当然書類審査から始まりまして、英語等の検定、其れから 1 次の医学検査、教養試験、2 次の医学検査、それから最終面接等云う事で、約 3 段階位の、書類審査を入れますと 4 段階位の、今迄の経験で御座いますが、ステップを踏んで絞って行く予定で御座います。

池上: そうすると会社に勤めている様な人も応募、

JAXA 白木: 勿論で御座います。

池上: 因みに今迄女性の応募ってのはどの位あったんですか。

JAXA 白木: ええと、一寸パーセントは。ええと、何名かは居られましたし、まあ現在既に二人程居りますから、女性も十分能力のある方が応募されてると云う理解です。

(暫く無言)

JAXA 白木: どうも有難う御座いました。